

# 「落花生」生育情報（第1報）

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

令和6年7月19日  
千葉県農林水産部  
生産振興課

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育情報を提供するものです。  
調査時点での生育状況をまとめたものであり、本年の収量を保証するものではありません。

## 1 生育状況

### 1) 発芽状況

5月から6月にかけて降水量が多く、水はけの悪いほ場では、は種作業の遅れや出芽率が低下した。

### 2) 開花状況

5月から6月にかけて高温で推移したため、開花日数（は種～開花期）がやや早まっています。

### 3) 地上部の生育

5月から6月にかけて高温で推移したため、最長分枝長は平年並みからやや長く、地上部乾物重も、平年並みからやや重くなっています。

表1 作況調査成績（7月10日調査）※対比は日数、又は平年比

品 種 名	年次	は種日	開花期	開花日数	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m <sup>2</sup> )
千葉半立	本年	5月31日	7月4日	34日	15.0	66.7
	平年	5月27日	7月7日	41日	16.4	76.0
	対比			7日早い	92%	88%
ナカテユタカ	本年	5月18日	6月26日	39日	21.0	154.8
	平年	5月21日	7月1日	41日	17.3	132.7
	対比			2日早い	122%	117%
Qなっつ (千葉P114号)	本年	5月30日	7月6日	37日	13.1	81.0
	平年	5月31日	7月6日	36日	14.9	57.7
	対比			1日遅い	88%	141%
おおまさり ネオ	本年	5月25日	7月1日	37日	22.8	129.8
	平年	5月22日	7月2日	41日	17.0	116.4
	対比			4日早い	135%	112%

\* 本年値は、各調査地点の平均値。「千葉半立」は千葉・印旛・香取・山武地区、「ナカテユタカ」は千葉・長生地区、「Qなっつ」は印旛・香取・長生地区、「おおまさりネオ」は千葉・印旛・君津地区。

\* 平年値は、圃場変更がない限りは過去7年間（「千葉半立」、「ナカテユタカ」、「Qなっつ」）の調査データから最大・最小を除く平均。ただし、「おおまさりネオ」は過去3年間の平均値との比較値。

\* 対比はラウンド処理をしているため、小数点以下が合わない場合がある。

表2 (参考) 落花生研究室(八街市)の作況(本年の値、7月10日調査)

は種日	品 種 名	開 花 期	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m <sup>2</sup> )
5月19日 (標播)	千葉半立	6月28日(1日早い)	26.4(127%)	160.5(134%)
	ナカテユタカ	6月26日(1日早い)	26.2(162%)	156.4(155%)
	Qなっつ	6月27日(2日早い)	28.4(162%)	157.9(150%)
	おおまさりネオ	6月26日(1日早い)	24.7(137%)	149.7(130%)
6月11日 (晩播)	千葉半立	7月11日(5日早い)	13.3(126%)	40.0(136%)
	ナカテユタカ	7月9日(4日早い)	12.0(119%)	37.4(131%)
	Qなっつ	7月11日(4日早い)	12.1(121%)	40.0(142%)
	おおまさりネオ	7月9日(5日早い)	12.5(120%)	45.6(131%)

\*栽植密度は5,128株/10a。カッコ内は、令和元年～令和5年の平均値対比を示す。

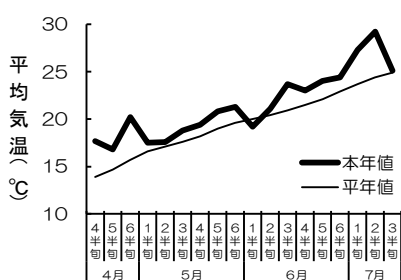


図1 気温の推移(アメダス、佐倉)

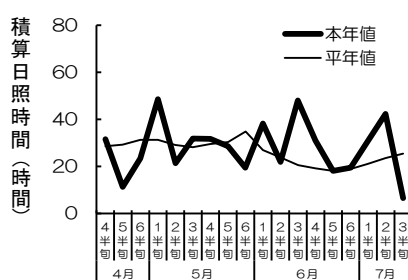


図2 日照時間の推移(アメダス、佐倉)

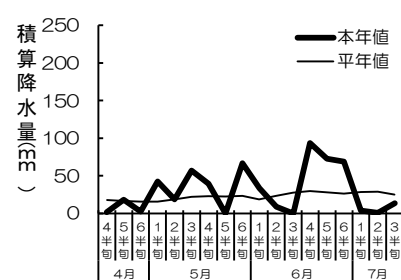


図3 降水量の推移(アメダス、佐倉)

## 2 これからの管理のポイント

### (1) 十分なかん水を行いましょ

7月中旬～8月上旬は、落花生の子房柄が伸長して地中で莢が肥大する時期です。この時期に干ばつ害を受けると、空莢や未熟粒が発生し、収量が大きく減少します。

また、8月上旬以降に干ばつに遭うと、幼芽褐変症が発生しやすくなり、種子に発芽障害が生じます。そのため、以下のポイントを参考にかん水を行いましょ。

- 開花期後20日頃から、週1回を目安にかん水し、採種する場合は、開花期後40日頃にもかん水しましょ。
- 1回のかん水量は、30ミリ以上の「十分なかん水」を心がけ、土壤水分が少ない時ほどかん水量を多くしましょ。
- 土壤が極度に乾燥している場合、一度の降雨だけでは土壤に水分が行き渡らないことがあるため、降雨後も土壤の乾燥具合を見極め、必要に応じてかん水してください。
- 「おおまさりネオ」は、莢の充実期に、多くの水分が必要です。  
開花期後20～60日頃にかけて定期的にかん水をしてください。  
(詳細別紙)

表3 播種時期ごとのかん水時期の目安（千葉半立）

播種日 (月/日)	開花期 (月/日)	1回目かん水 (月/日)	2回目かん水 (月/日)
5 / 10	6 / 26	7 / 16	8 / 5
5 / 20	7 / 2	7 / 22	8 / 11
5 / 30	7 / 8	7 / 28	8 / 17
6 / 10	7 / 15	8 / 4	8 / 24

\* 令和5年度試験研究成果普及情報「気象データを活用した落花生の開花期予測モデルの開発」を活用し、アメダス佐倉の日平均気温を基に「千葉半立」の開花期を予測して算出した  
 \* 1回目のかん水日は開花期後20日、2回目のかん水日は開花期後40日とした。

(参考)

開花期後20日にかん水すると、稔実率が上がる。

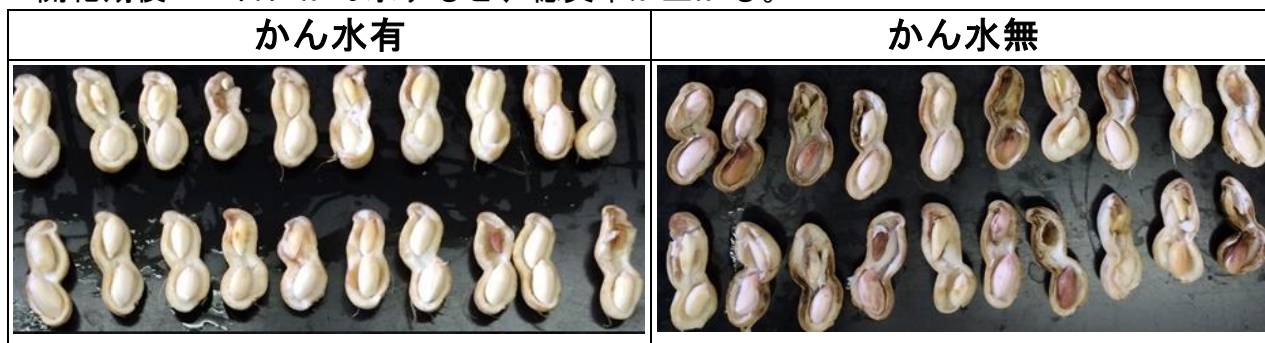


図 開花期後のかん水有無の違いによる子実の状況（平成27年千葉県農林総合研究センター）  
 （ガラスハウス内枠ほ場での調査結果、開花期後40日の子実の状況）

## (2) 病害虫の早期発見・早期防除を徹底しよう！

(※) 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

**「茎腐病」** 茎の地ぎわ部が腐り、地上部がしおれ、やがて枯死します。発生が認められたときは、ほ場には**トップジンM水和剤**、**ベンレート水和剤**を散布し、被害株はすぐに抜き取り、表土と一緒にほ場から持ち出し処分しましょう。



薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	1,500倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	4回以内
ベンレート水和剤	2,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	4回以内

**「白絹病」** 高温・多湿条件下で発生しやすく、地ぎわ部が侵され白い菌糸が密生し、やがて発育不良となり、枯死します。例年発病するほ場では、**フロンサイド粉剤、アフェットフロアブル**を株元に散布しましょう。発病した場合は、被害株をすぐに抜き取り、表土と一緒にほ場から持ち出します。



薬剤名	使用量（倍率）	使用液量	使用時期	使用回数
フロンサイド粉剤	20kg/10a	—	収穫 45 日前まで	1 回
アフェットフロアブル	2,000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内

**「褐斑病」** 葉に円形の斑点ができる病気で、病状が進行すると落葉します。本病は発生初期の薬剤防除効果が高いため、発生が見られたら早期に**トップジンM水和剤、ベンレート水和剤**等の薬剤を散布しましょう。



薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	1,500～2,000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内
ベンレート水和剤	2,000～3,000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内

**茎腐病・白絹病は、連作を避け、他作物と輪作して、被害の軽減に努めましょう！**